

# 【ねがいましては】

第46号

平成4年6月25日

共和珠算塾 新浜

## 父の姿

先日、某テレビ局で「北の国から、92『巣立ち』」というのをやっていました。2日間の長編物で、2日目のシーンには、全身を釘づけにされました。

田中邦衛さん演ずる「父」の姿がなんとも物悲しくて「男」を感じさせました。

「父」としての役割と、「男」としての一生の夢を追いかけてゆく、真剣な心のぶつかり合いが、そこには演じられていました。

息子が罪を犯したのにもかかわらず、父は笑顔で迎える。罪のことには触れず、明るくよそおうとする父の姿、年々老いさらばえてゆく姿と、北海道で一人生活するさみしさが、田中さんから伝わります。

息子は怒ってくれない父に心から涙を流します。叱られないことの方が、どんなに苦しいことか。

最後のシーンでも父は死の瀬戸際に出会いながらも、「いなくていいやつが、なぜいるんだ」とつぶやきます。そのことばの中に、父の精一杯の思いやりとやさしさが含まれています。

北海道での一人暮らしの、どんなにさみしくきびしいものかは、もう知り尽くしているはずです。部屋にある、亡き妻と子どもたちの写真が語ってくれます。

毎日が「会いたい」の連続であるはずなのに、最後まで言っていない田中さんに頭がさがりました。

現代社会では、なかなか親の働く姿を子どもたちは見ることはできません。日曜日はゴロゴロと部屋でころがるお父さんが多いようです。

黙々と井戸を掘り続ける父の姿に、世のお父さんが変われるとしたら、子はそれをどう受け止めるでしょうか。

今年のキャンプでは、便利になりすぎてしまった世の中に気がついてもらうこと。親のありがたさを知ってもらうこと。（中には親からはなれられて喜んでいる子もいます）などを計画いたしております。具体的には「規則のない生活って？」→ 一人ひとりがバラバラに好きなことをやることによって、いかに様々な決まりが必要か、役割分担が必要か。またリーダーが必要か。まず失敗させるところからスタートするつもりです。ほかに「起きてから寝るまで時計を見ないで生活しよう」「電気のない生活」「本の読み聞かせ」「TV『知ってるつもり』より様々な人々の人生を語る」つもりでおります。

7月の予定及び夏休みの予定は、別紙にてお知らせします。